

開店祝いのはずが…

ある日のお昼どき。新規開店の和食店の店先に開店祝いの花飾りがたくさん置かれていました。新規の店があると味見に行く私は、きれいな花飾りを眺めながら、その日のお昼ご飯を食べに店に入りました。おいしく、店の人の接待も気持ちよくて、「ああ、おいしかった」と店を出た途端に、ある光景に出くわしました。

「祝開店」の花飾りから花を抜き取っている人がいたのです。店内に戻って、女将さんにそのことを告げると「花をもらってもいいかとおっしゃったので、どうぞと答えた」と。店の客ではなく道すがらの女性のようでしたが、女将としては今後の店の評判もあるので、そう答えたのだろうと察する。それ以上は何も言わずに店を出て、さあ、どうなるかなあ、と道を挟んで向かい側で眺めることにしました。私、「観察」が好きなんです。自分のお産も「観察」したくらいで、産気づいてから産院へ行くまでの様子を大学ノートに記しました。お産婆さんから「初産の妊婦が生まれそうだと自分で電話してきたので、『まあ、よくあること。出産まではまだまだだろう』と高を括っていたら、子宮口が3指くらい開いていてびっくりした」と言われました。それはさておき。

開店飾りです……道行く人が次々に立ち止まって、自転車で通りかけた人も停止して。「え？　タダなん、ほんなら私も」の群集心理なのでしょうか。まあ、取るわ、取るわ……。あっという間、10分経ったかどうか。下にはこぼれた葉っぱが散乱、花束部分はスカスカになってしまいました。開店初日ですよ！　騒ぎに気付いたのか、店から出てきた女将のお目眼は真ん丸、口はポカン。

ほんま、群集心理って、怖いなあ、としみじみ思ったことでした。（さ）